

地元を流れる飛鳥川を通して自然の大切さ、生き物の尊さを学ぶ。

駒ヶ谷小学校生き物クラブ講師 滋賀県立大学環境生態学科1回生 ○吉村 元貴
協力者：羽曳野市立駒ヶ谷小学校校長 高嶋 幸治

1. 活動方針・目的

活動の目的として子供たちに川を通じ、自然について実際に肌で学び、感じとってもらおうこと。

活動の方針として子供たちにもっと身近な飛鳥川になってほしいので地域の人々と子供たちと行政（土木事務所）で意見を出し合いよりよい飛鳥川になるようにすること。

2. 活動内容

(ア) 身近な自然・季節の変化を知ろう。

→身近にはどんな環境があり、その中でどのような生き物が生活しているのかを知る

→季節の変化を生き物を通して感じる

(イ) ガサガサで魚とりをしよう。

→飛鳥川に1年に最低1度は入って魚とりをしています。子供たちと一緒に外来魚駆除釣りなどもしました。

(ウ) メダカについてもっと知ろう。

→メダカを知らない子供たちにメダカという魚をもっと知ってもらい。今、減少傾向にある飛鳥川にメダカが増えるように水槽で繁殖をおこなうことを通しメダカについて親しむ。

(エ) 飛鳥川についてもっと知ろう

川（飛鳥川）について魚・その他の生き物や河川改修で川はどのように変化したのかなど様々な視点から見る

3. 過去の失敗事例

月に1回で、しかも土曜日の午前の2時間だけの活動なので、川に入ったりすると、最後に予定していた魚についての説明や、どのようなところに生き物が多かったなどの、本来の目的であることが時間の関係上、粗雑になってしまう。教訓として野外活動している時間を減らし、校長に頼んで開始する時間を早めてもらう。

メダカを増やすためのピオトープの底をビニールシートにしたのでガマの根が突き破り、浸水してピオトープが空になったときがある。教訓として底にゴムシートを敷くかコンクリートで固めることにする。

小学校低学年の子供が多いので、教室でするような場合、すぐに集中力を切らしてまとまらなくなる。教訓として映像や音声を使って集中力を切らさないことが必要である。

4. 今後の課題等

小学校の生き物クラブだけの活動だったが、飛鳥川を現状より良くし、地域の人々と飛鳥川がもっと身近な関係になるために、保護者や地域の人々と共に行政（富田林土木事務所）もふくめ飛鳥川のゴミ拾い活動を定期的実施し、その際に飛鳥川の現状を説明し、賛同し協力してくださるかたで飛鳥川流域のネットワークを作り活動を実施する。生き物クラブとしても飛鳥川についていろいろ学ぶ。

美しい川を次世代へ…

地元を流れる飛鳥川を通して自然の大切さ、生き物の尊さを学ぶ

大阪府羽曳野市立駒ヶ谷小学校生き物クラブ

2009年3月16日

駒ヶ谷小学校 生き物クラブ講師 滋賀県立大学環境生態学科 吉村 元貴

活動場所




飛鳥川



大阪府羽曳野市

活動にいたる経緯・理念

- 自分が子どもの頃との違いに驚いた
 - 川で遊ぶ子どもが減った
 - 子供たちが自然相手に遊ばなくなったのに気づいた
- 
- 川と関わる機会を増やす事で、自然の変化を肌で敏感に感じとることができる
 - フィールドへ出て、生き物とふれ合うことでしか、本当の理解へつながらない

現在13人で活動中

活動内容


i 飛鳥川について知ろう！！

- 生き物を通して自然相手の遊び方・季節変化を肌で学ぶ。
- 川であそぶ機会が無い子供たちに川で遊ぶ楽しさを知ってもらおう。

ii 灯台下暗し

- 身近な環境にも多くの生き物がいることを知る。

iii たくさんメダカの泳ぐ飛鳥川にしよう

- めだかを知らない子供が多い
 - 飛鳥川のメダカが本当に減った。
- 
- めだかの学習
 - めだかの繁殖



これから

具体的内容

- 飛鳥川雑魚取りネットワーク(名称)の構築
- 小学校で年2回の飛鳥川の授業
- 生き物クラブで継続的に飛鳥川の生態調査

外への発信

河川学習
ごみ拾い の実施

飛鳥川雑魚取りネットワーク

- 地域住民による飛鳥川を中心にしたネットワーク
- 「メダカの泳ぐ飛鳥川を子供たちへ」をあいことばに活動
- ①子供たちへの観察会の実施
- ②メダカの飼育繁殖
- ③・飛鳥川の維持管理
の三本柱で活動予定